

# 今日も「丁あがり」

第15話 スケールやノギスを持ってご自身の機械の「鋼材の厚み」を測ってみましょう！の巻

皆さん、こんにちは！「君は歩き方を見失っている。足の裏で地球を掴むように歩け！」と整体の先生に指導され、怪しく思いながらも言うことを聞いてみたところ、劇的に腰痛が改善したロボストス高垣でございます（笑）。幸運にも1月は本誌連載でおなじみのヒール・ミヤイさん、齊藤義崇さんとお会いするチャンスに恵まれました。さらに札幌で開催された「2018雪国直播サミット」というイベントにも参加。いや〜交流させていただいた連載陣も読者の皆さんもめちゃくちゃ元気でとても驚きました！お会いした方それぞれにこだわりの強さとかギリギリしたものを感じまして、農業っておもしろ〜!!と、これまでにない衝撃を受けた今年の幕開けとなりました。この連載をきっかけにロボストスに期待してくださいる方がいることも実感できま



写真1：このプラウのリンク部分のブラケットは12mm厚の板を曲げて作られていた



写真2：トラクターの安全フレーム、根元のプランケットは使われていたのは9mm厚。こういう地味な部分も見逃せない！



写真3：この野菜収穫機のカバーのステーは3.2mm厚。ノギスが3.6mmを表示しているのはバリと塗装の影響でしょう。感わずに正確に判断すべし！

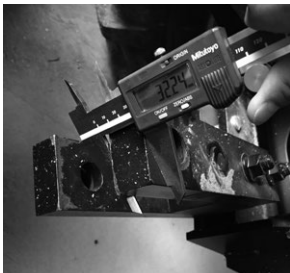


写真4：トラクターの牽引管は32mm厚。ちなみに僕のノギスはプロ仕様なので3万円します（笑）

した。そこで、今月は趣向を変えてみようと思います。というわけで、「鋼材の厚さ」について一緒に考えてみましょう♪

### 鋼材の厚みの基本は10種類

よろしければ、読みながら参加してもらえたらうれしいです（笑）。まずは皆さん、ぜひスケールを手にとってください。150mmスケールならアマゾンで500円程度で買えるので、お持ちでなければいけませんぐポチりましょう。ノギスも2000円あればお釣りが来ますから「1農家1本ノギスを持つのは当たり前前」の時代に変わっていきましよう。

今回は鉄と向き合ってみよう。今回は日本国内でよく流通している鋼板の厚みは1・6mm、2・3mm、3・2mm、4・5mm、6mm、9mm、12mm、16mm、19mm、22mm——基本的にこの10種を暗記しておけばOK牧場！特殊なものを除けば、このどれかに当てはまります。もちろんほかの厚みもあって、乾燥機のカバーには1mm、トラクターのロアリンクには32mmとかそれ以上に厚い材料が使われていますし、プラウのフレームは19mm厚か22mm厚あたりですよ。これらの鋼材ルールは、板金加工業界では常識。ぜひお時間があるときにご自身の機械を隅々まで測って



高垣達郎（たかがき・たつろう）1984年アメリカ生まれ、東京都大田区の町工場街で育つ。2011年に株式会社ロボストスを創業し、農林水産業機械のワンオフ対応を軸に、独自のサービスを構築。A-1グランプリ2011グランプリを受賞。群馬県を拠点に、機械メーカー・ディーラー・農協・農業生産法人など、全国的に取引を拡大している。株式会社ロボストス代表取締役社長。

みてくださいます。さまざまな厚みの鋼材を組み合わせて製造されていることがわかると思っています。ちなみに、前述の10種類は日本国内の規格なので、海外製は少し事情が異なるでしょうし、ステンレスやアルミはまた別の規格があります。

農家さん自身が農業機械を材料レベルで正確に把握することによって、意味があるかというところ、何か不具合があつてディーラーやメーカーの担当者や機械の話をするときに「もっと強くならないの？」と抽象的に要求するんじゃないかと、「4.5mmの板を6mm厚で作ってほしい」と具体的に相談できるようにするんです。できないわけじゃないんですから、プレッシャーが変わるでしょう？

農家さんの要望がかなえられるでしょうし、相談されるディーラーさんやメーカーさんの刺激にもなつて、巡り巡つてより安定的な農業経営につながると思うんですよ。ということで、今日も「丁あがり」